

経済概況

金融政策レビュー - 2023年10月

2023年10月4日(水)

金融政策レビュー および OCR発表 - 2023

要点抜粋:

「金融政策委員会はこのほど政策金利（OCR）を5.50%に据え置くことで合意に達した。」

概要:

「委員会は、最大限に持続可能な雇用を支えつつ、年間消費者物価上昇率を1~3%の目標範囲に確実に戻すには、OCRを制限的な水準に維持する必要があるとの見解で一致した。」

望ましい効果:

「金利は経済活動を抑制しており、期待したインフレ圧力の低下につながっている。」

国内では:

「需要の伸びは引き続き鈍化している。6月期のGDP成長率は予想を上回ったものの、成長の見通しは依然低調。制限的な金融情勢が続くため、支出の伸びはさらに鈍化することが予想される。」

一方:

「短期的リスクとして、経済活動とインフレ指標が必要な水準までは低下しない可能性がある。」

世界的に:

「経済成長は依然としてトレンドを下回っており、ヘッドライン・インフレ率はほとんどの貿易相手国で緩和している。コア・インフレ率も小幅ながら緩和。世界的な需要低下は、ニュージーランドの輸出量と価格に下落圧力をかけている。原油を除いて、輸入価格は世界的に下落している。」

結論:

「委員会は、最大限に持続可能な雇用を支えつつ、年間消費者物価上昇率を1~3%の目標範囲に確実に戻すには、より持続的な期間、金利を制限的な水準に維持する必要があるとの見解で一致した。」

コメント:

今回も予想通りの内容で、再利上げのハードルは現時点ではかなり高そうです。あえて言うなら、委員会の議事録からは、高めの金利をより長く維持する必要があると提言する若干タカ派的な姿勢が読み取れます。委員会は「見通しに対するリスクは8月の声明で議論されたものと同様」との見解であり、文面が8月と似通っていることに驚きはありません。また、文中では世界的な低成長について「勢いが衰え始めている」と指摘、ニュージーランドの輸出に対する中国の需要についてもコメントがありました。国内経済の直面するリスクが認識されている点は良しとするべきでしょう。RBNZが6月期のGDPの堅調な数字に目を通したことは明らかです。他にもいくつかのデータに言及し、軟化とキャパシティ減を示すものと見ています。今月は記者会見がないため報道陣の鋭い質問もなく、行間から何とか手がかりを探るしかなさそうです。

マーケットへの影響:

今回の発表に先立って、市場は3月までの全面利上げに応じた値をつけた上で、それ以降の追加利上げの可能性を30%と予想していました。つまり、RBNZはさらに踏み込むとの見方があったということです。NZドル/米ドルは発表後すぐに約半セント下落し、9月上旬以降初めて0.5900を割り込みました。

スワップ金利も同様に、もう少しタカ派寄りの発言を求めており、発表後にショートエンドで数ポイント下落、ロングエンドも1ティック下落しました。現状、国内の動きは海外の影響次第であり、これといった材料はありません。一方、来年早々にも利上げとの見方もまだあるようです。全体として、市場の反応はかなり薄く、すべてが予想通りだったことを示しています。